

変更認定の申請書類目次

申請書

別紙1 法人の基本情報について

別紙2 法人の事業について

別紙3 法人の財務に関する公益認定の基準に係る書類について

別表A 収支相償の計算

- (1) 収支相償の計算(収益事業等の利益額の50%を繰入れる場合)・
(2) 収支相償の計算(収益事業等の利益額の50%を超えて繰入れる場合)・

別表B 公益目的事業比率の算定

- (1) 公益目的事業比率の算定総括表
 - (2) 土地の使用に係る費用額の算定
 - (3) 融資に係る費用額の算定
 - (4) 無償の役務の提供等に係る費用額の算定
 - (5) 公益目的事業比率算定に係る計算表

別表C 遊休財産額の保有制限の判定

- (1) 遊休財産額の保有制限の判定
 - (2) 控除対象財産
 - (3) 公益目的保有財産配賦計算表
 - (4) 資産取得資金
 - (5) 特定費用準備資金

別表E 財政基盤の明確化

別表F 各事業に関連する費用額の配賦計算表

別紙4 その他添付書類について

1. 定款変更の案 ······
 2. 確認書 ······
 3. 許認可等を証する書類（※許認可等を必要とする場合のみ） ······
 4. 事業計画書 ······
 5. 収支予算書 ······
 6. 事業・組織体系図 ······
 7. 寄附の使途の特定の内容がわかる書類（公益目的事業以外に使途を特定した寄附がある場合のみ） ······
 8. 当該変更を決議した理事会の議事録の写し ······
- (9～16は、合併に伴う変更認定申請の場合のみ提出すべき添付書類)
9. 合併に伴い就任（又は退任）する理事等の名簿 ······
 10. 理事等の名簿 ······
 11. 役員等名簿（閲覧用） ······
 12. 理事、監事及び評議員に対する報酬等の支給の基準を記載した書類 ······
 13. 合併契約書の写し ······
 14. 吸収合併に伴い消滅する公益法人の滞納処分に係る国税及び地方税の納税証明書 ······
 15. 消滅する法人に係る前事業年度の損益計算書等 ······
 16. 社員の資格の得喪に関する細則 ······
- (17は、事業の譲渡に伴う変更認定申請の場合のみ提出すべき添付書類)
17. 事業譲渡契約書の写し ······

年 月 日

殿

法人の名称

代表者の氏名

印

変更認定申請書

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第11条第1項に規定する変更の認定を受けたいので、同条第2項の規定により、下記のとおり申請します。

記

変更に係る事項	区分 (注)	変更後	変更前
変更の理由			
変更予定年月日	年 月 日		

注 「区分」の欄には、変更の区分を以下の分類に従い、その記号を記載すること。

- ア 公益目的事業を行う都道府県の区域（定款で定めるものに限る。）又は主たる事務所若しくは従たる事務所の所在場所の変更
- イ 公益目的事業の種類又は内容の変更
- ウ 収益事業等の内容の変更

【別紙1：法人の基本情報について】

事業 年度	自 至	年	月	日	法人コード	
		年	月	日	法人名	

1. 基本情報

フリガナ						
法人の名称						
主たる事務所の住所及び連絡先						
住所	〒		都道 府県		市区 町村	
	番地等	(建物名又は部屋番号がある場合は、記載してください。)				
代表電話番号			FAX番号			
代表電子メールアドレス			@			
ホームページアドレス						
代表理事の氏名						
事業年度	月	日	～	月	日	
申請業務担当者（注）						
氏名（又は名称）			役職（又は担当者名）			
電話番号			FAX番号			
電子メールアドレス	@					
事業の概要						

注 代理人による申請の場合は委任状を添付し、代理人が法人の場合は「氏名」の欄に名称を、「役職」欄に担当者名を記載してください。

【別紙2：法人の事業について】

事業 年度	自 至	年	月	日	法人コード	
					法人名	

1. 事業の一覧（注）

事業の区分	事業番号	事業の内容	変更の認定に係る事業
公益目的事業	公1		<input type="checkbox"/>
	公2		<input type="checkbox"/>
	公3		<input type="checkbox"/>
	公4		<input type="checkbox"/>
	公5		<input type="checkbox"/>
	公6		<input type="checkbox"/>
	公7		<input type="checkbox"/>
	公8		<input type="checkbox"/>
	公9		<input type="checkbox"/>
収益事業	収1		<input type="checkbox"/>
	収2		<input type="checkbox"/>
	収3		<input type="checkbox"/>
その他の事業	他1		<input type="checkbox"/>
	他2		<input type="checkbox"/>

注 変更の認定を受けた後の法人の全事業について記載し、変更の認定に係る事業については、「事業の内容」の欄の右欄にチェックをし、当該事業についてのみ、「2. 個別の事業の内容について」を記載してください。

2. 個別の事業の内容について

(1) 公益目的事業について

(事業単位ごとに作成してください。)

事業番号	事業の内容	公益目的事業比率 %

〔1〕変更の内容及び理由

（記入用紙面）

〔2〕事業の概要について（注1）

（記入用紙面）

〔3〕事業の公益性について

定款（法人の事業又は目的）上の根拠	
事業の種類 (別表の号)	(本事業が、左欄に記載した事業の種類に該当すると考える理由を記載してください。)

（本事業が不特定多数の者の利益の増進に寄与すると言える事実を記載してください（注2）。）

チェックポイント事業区分 (下欄▼ボタンをクリックして、法人の事業に該当の区分を選択してください。事業区分ごとのチェックポイントがその下に表示されます。該当する事業区分がないと考える場合には、最後の「上記事業区分に該当しない場合」を選択してください。) 事業区分を選択してください。 ▼ 区分ごとのチェックポイント その他説明事項	チェックポイントに該当する旨の説明 (左欄に表示されたチェックポイントに則して記載してください。)

チェックポイント事業区分	チェックポイントに該当する旨の説明
<p>事業区分を選択してください。</p> <p>▼</p> <p>区分ごとのチェックポイント</p> <p>.....</p>	
	<p>その他説明事項</p>

チェックポイント事業区分	チェックポイントに該当する旨の説明
<p>事業区分を選択してください。</p> <p>▼</p> <p>区分ごとのチェックポイント</p> <p>.....</p>	
	<p>その他説明事項</p>

〔4〕本事業を反復継続して行うのに最低限必要となる許認可等について（注3）

許認可等の名称	
根拠法令	
許認可等行政機関	

注1 事業の概要の欄では、事業の実施のための財源、必要となる財産を含めて記載してください。また、事業の重要な部分を委託している場合には、その委託部分が分かるように記載してください。

注2 「公益認定等に関する運用について（公益認定等ガイドライン）」における「【参考】公益目的事業のチェックポイントについて」を参考に記載してください。

注3 記載した許認可等を得ている場合には、許認可等の写しを、現在申請中の場合には、当該許認可等の申請書を添付してください。また、「許認可等行政機関」は課名等まで記載してください。

(2) 収益事業について

(事業単位ごとに作成してください。)

事業番号	事業の内容	定款（法人の事業又は目的）上の根拠
変更の内容及び理由		
事業の概要		
本事業を反復継続して行うのに最低限必要となる許認可等について（注1）		
許認可等の名称		
根拠法令		
許認可等行政機関		
本事業の利益の額が0円以下である場合の理由又は今後の改善方策について（注2）		

注1 記載した許認可等を得ている場合には、許認可等の写しを、現在申請中の場合には、当該許認可等の申請書を添付してください。また、「許認可等行政機関」は課名等まで記載してください。

注2 本事業における利益から、管理費のうち本事業に按分される額を控除した額が、0円以下である場合に記載してください。

(3) その他事業（相互扶助等事業）について

(事業単位ごとに作成してください。)

事業番号	事業の内容	定款（法人の事業又は目的）上の根拠
変更の内容及び理由		
事業の概要		
本事業を反復継続して行うのに最低限必要となる許認可等について（注）		
許認可等の名称		
根拠法令		
許認可等行政機関		

注 記載した許認可等を得ている場合には、許認可等の写しを、現在申請中の場合には、当該許認可等の申請書を添付してください。また、「許認可等行政機関」は課名等まで記載してください。

【別紙3 法人の財務に関する公益認定の基準に係る書類について】

記載要領：下表の水色欄(■部分)を記載してください。

事業自年度 年 月 日 法人コード
至 年 月 日 法人名

【別表A(1) 収支相償の計算(収益事業等の利益額の50%を繰入れる場合)】

(公益法人認定法第5条第6号に定められた収支相償について審査します。)

1. 第一段階(公益目的事業の收支相償)

法人が行う事業について、その経常収益、経常費用を比較します。

2. 第二段階(公益目的事業会計全体の収支相償判定)

法人の公益目的事業会計全体に係る収入と費用等を比較します。

		収入	費用
第一段階の経常収益計と経常費用計(2欄・3欄)	7	円	円
特定の事業と関連付けられない公益目的事業に係るその他の経常収益、経常費用	8	円	円
7欄と8欄の合計(公益目的事業会計の経常収益計、経常費用計の額と一致しているか確認してください。)	9	円	円
公益目的事業に係る特定費用準備資金に関する調整(別表C(5)より) (当期の取崩額を「収入」欄に、積立額を「費用」欄に記載してください。)	10	円	円
収益事業等から 生じた利益の繰入額	収益事業から 生じた利益の繰入額	11	円
	その他事業(相互扶助等事業)から 生じた利益の繰入額	12	円
合計(9欄～12欄)	13	円	円

※第二段階における剩余金の扱い

収支相償の額(収入-費用欄)がプラスとなる場合の今後の剩余金の扱い等

記載要領：下表の水色欄(■部分)を記載してください。

事業 年度	自 至	年 年	月 月	日 日	法人コード	
----------	--------	--------	--------	--------	-------	--

【別表A(2) 収支相償の計算(収益事業等の利益額を50%を超えて繰入れる場合)】

(公益法人認定法第5条第6号に定められた収支相償について審査します。)

1. 第一段階(公益目的事業の収支相償)

法人が行う事業について、その経常収益、経常費用を比較します。

プラスの事業がある場合、発生理由とこれを解消するための計画等を記入してください。

第二段階7欄へ

理由：
計画：

2. 第二段階(公益目的事業会計全体の収支相償判定)

法人の公益目的事業会計全体に係る収入と費用等を比較します。

		収入	費用
第一段階の経常収益計と経常費用計(2欄・3欄)	7	円	円
特定の事業と関連付けられない公益目的事業に係るその他の経常収益、経常費用	8	円	円
7欄と8欄の合計(公益目的事業会計の経常収益計、経常費用計の額と一致しているか確認してください。)	9	円	円
公益目的保有財産に係る減価償却費 (経常費用額の控除対象。「費用」欄に記載してください。)	10	△	円
公益目的事業に係る特定費用準備資金に関する調整(別表C(5)より) (当期の取崩額を「収入」欄に、積立額を「費用」欄に記載してください。ただし、上限があります。)	11	円	円
公益資産取得資金に関する調整(別表C(4)より) (当期の取崩額を「収入」欄に、積立額を「費用」欄に記載してください。ただし、上限があります。)	12	円	円
公益目的保有財産に係る当期収支 (売却に関しては売却収入額を「収入」欄に、取得に関しては支出額を「費用」欄に記載してください。)	13	円	円
収益事業等から 生じた利益の繰入額	収益事業から 生じた利益の繰入額	14	円
	その他事業(相互扶助等事業)から 生じた利益の繰入額	15	円
合計(9欄～15欄の合計)	16	円	円

記載要領：下表の水色欄(■部分)を記載してください。

事業 年度	自 年 至 年	年 月 月	日 日	法人コード	
				法人名	

【別表B(1) 公益目的事業比率の算定総括表】

(公益法人認定法第5条第8号に定められた公益目的事業比率について審査します。)

公益目的事業比率の算定					
	公益実施費用額(13欄より)	1			円
	公益実施費用額+収益等実施費用額+管理運営費用額(13、23、33欄の合計)	2			円
	公益目的事業比率(1欄÷2欄)	3			%
公益実施費用額の計算					
	公益目的事業に係る事業費の額(別表B(5)I欄より)	4			円
調整額	土地の使用に係る費用額(別表B(5)II欄より)	5			円
	融資に係る費用額(別表B(5)III欄より)	6			円
	無償の役務の提供等に係る費用額(別表B(5)IV欄より)	7			円
	特定費用準備資金積立額(別表B(5)V欄より)	8			円
	特定費用準備資金取崩額(別表B(5)VI欄より)	9			円
	引当金の取崩額(別表B(5)VII欄より)	10			円
	財産の譲渡損等(別表B(5)VIII欄より)	11			円
	調整額計(5欄~11欄の計)	12			円
	公益実施費用額(4欄+12欄)	13			円
収益等実施費用額の計算					
	収益事業等に係る事業費の額(別表B(5)I欄より)	14			円
調整額	土地の使用に係る費用額(別表B(5)II欄より)	15			円
	融資に係る費用額(別表B(5)III欄より)	16			円
	無償の役務の提供等に係る費用額(別表B(5)IV欄より)	17			円
	特定費用準備資金積立額(別表B(5)V欄より)	18			円
	特定費用準備資金取崩額(別表B(5)VI欄より)	19			円
	引当金の取崩額(別表B(5)VII欄より)	20			円
	財産の譲渡損等(別表B(5)VIII欄より)	21			円
	調整額計(15欄~21欄の計)	22			円
	収益等実施費用額(14欄+22欄)	23			円
管理運営費用額の計算					
	管理費の額(別表B(5)I欄より)	24			円
調整額	土地の使用に係る費用額(別表B(5)II欄より)	25			円
	融資に係る費用額(別表B(5)III欄より)	26			円
	無償の役務の提供等に係る費用額(別表B(5)IV欄より)	27			円
	特定費用準備資金積立額(別表B(5)V欄より)	28			円
	特定費用準備資金取崩額(別表B(5)VI欄より)	29			円
	引当金の取崩額(別表B(5)VII欄より)	30			円
	財産の譲渡損等(別表B(5)VIII欄より)	31			円
	調整額計(25欄~31欄の計)	32			円
	管理運営費用額(24欄+32欄)	33			円

記載要領：下表の水色欄(■部分)を記載してください。

NO.		事業	自	年	月	日	法人コード	
		年度	至	年	月	日	法人名	

【別表B(2)土地の使用に係る費用額の算定】

(公益法人認定法第5条第8号に定められた公益目的事業比率の計算に必要な、土地の使用に係る費用額の算定に用います。土地一筆ごとに1枚記載してください。)

土地の所在地	1						
面積	2		m ²	帳簿価額	3		円
1年度間の土地賃料相当額(7欄)より	4		円	土地の使用に当たり負担した費用額(固定資産税額等)	5		円
				事業費に算入すべきみなし費用額合計(4欄-5欄)	6		円
土地の賃料相当額(4欄)の算定根拠	7						
<p>※資料を添付する場合は、資料の番号と資料名を記載 (資料番号： 資料名：)</p>							
土地の使用に当たり負担した費用額(5欄)の内容と算定根拠	8	<p>※資料を添付する場合は、資料の番号と資料名を記載 (資料番号： 資料名：)</p>					
算入対象となる事業名と土地使用方法、配賦額 (配賦額は別表B(5)II(土地の使用に係る費用額)へ転記してください)	9	事業番号	事業の内容	各事業ごとの土地使用方法	配賦額		円
							円
							円
							円
							円
							円
<p>(複数事業に共通して土地を使用する場合に記載してください)</p>							
土地の賃料相当額の各事業の費用額への配賦計算内訳(9欄の算出根拠)	10	<p>※資料を添付する場合は、資料の番号と資料名を記載 (資料番号： 資料名：)</p>					

記載要領：下表の水色欄(■部分)を記載してください。

NO.	■	事業 年度	自 至	年 年	月 月	日 日	法人コード	■

【別表B(3)融資に係る費用額の算定】

(公益法人認定法第5条第8号に定められた公益目的事業比率の計算に必要な、融資に係る費用額の計算に用います。)

事業番号	1	■	事業の内容	2	■
貸付の内容	3				
貸付利率	4				
借入れをして調達した場合の利率	5				
費用額に算入する額(7欄)の算定根拠	6				
※資料を添付する場合は、資料の番号と資料名を記載 (資料番号： ■ 資料名： ■)					
費用額に算入する額	7	■	■	■	■

7欄の額を、別表B(5)Ⅲ(融資に係る費用額)へ転記してください。
円

記載要領：下表の水色欄(■部分)を記載してください。

NO.		事業 年度	自 至	年 年	月 月	日 日	法人コード 法人名

【別表B(4)無償の役務の提供等に係る費用額の算定】

(公益法人認定法第5条第8号に定められた公益目的事業比率の計算に必要な、無償の役務提供等に係る費用額の算定に用います。役務提供等1件ごとに記載してください。)

役務提供等の名称	1						
役務提供等の内容	2						
役務提供等を受ける場所	3						
役務の提供があった事実を証する方法	4						
必要対価の額 (役務提供の対価額)	5	円	支払対価の額(役務提供 に対し実際に支払う額)	6	円		
費用額に算入する総額(5欄-6欄)	7	円					
必要対価の額(5欄) の算定根拠 (役務提供の延べ日数や、延べ人数、単価等の算定根拠を、 詳しく記載してください。また、昨年度の 実績等があれば記載 してください。)	8	※資料を添付する場合は、資料の番号と資料名を記載 (資料番号： 資料名：)					
支払対価の額(6欄) の内容と算定根拠	9	※資料を添付する場合は、資料の番号と資料名を記載 (資料番号： 資料名：)					
算入対象となる事業 と配賦額 (配賦額は別表B(5) IV(無償の役務提供 等に係る費用額)へ 転記してください)	10	事業番号	事業の内容	事業の実施に対し、この役務等の 提供等が不可欠である理由を説 明してください。			配賦額
							円
							円
各事業の費用額への配賦(10欄)計算内 訳	11	(複数事業に共通して役務が提供される場合に記載してください)					
		※資料を添付する場合は、資料の番号と資料名を記載 (資料番号： 資料名：)					

事業 年度	自	年	月	日	法人コード	
	至	年	月	日	法人名	

【別表B(5) 公益目的事業比率算定に係る計算表】その1

(公益法人認定法第5条第8号に定められた公益目的事業比率の算定について、各事業ごとに数値をまとめ、別表B(1)に転記するための表です。)

(単位:円)

別表B(1)(事業比率)4欄へ

I 事業実施に係る経常費用の額(事業費の額)

別表B(1)(事
比率)5欄

II 土地の使用に係る費用額(別表B(2)より)

別表B(1)(事
比率)5欄~

III 融資に係る費用額(別表B(3)より)

別表B(入字率
率)6欄へ

IV 無償の役務の提供等に係る費用額(別表B(4)より)

別表B(1)(事業
比率)7欄へ

V 特定費用準備資金当期積立額(別表C(5)より)

別表B(1)(事
比率)8欄へ

VI 特定費用準備資金当期取崩額(別表C(5)より、マイナス額で記載してください)

別表B(1)(事業
比率)9欄へ

Ⅷ 引当金の取り崩し額(マイナス額で記載してください)

別表B(入学者
比率)10欄へ

八 財産の譲渡損等の額(認定規則第15条第1、3、4項の額をマイナス額で、第2項の額をプラス額で記載してください。)

別表B(1)(事業
比率)11欄へ

IX 合計

別表B(1)(事業比率)14欄へ	法人コード	
	法人名	

【別表B(5) 公益目的事業比率算定に係る計算表】その2

(公益法人認定法第5条第8号に定められた公益目的事業比率の算定について、各事業ごとに数値をまとめ、別表B(1)に転記するための表です。)

I 事業実施に係る経常費用の額(事業費の額)

II 土地の使用に係る費用額(別表B(2)より)

III 融資に係る費用額(別表B(3)より)

IV 無償の役務の提供等に係る費用額(別表B(4)より)

V 特定費用準備資金当期積立額(別表C(5)より)

VI 特定費用準備資金当期取崩額(別表C(5)より、マイナス額で記載してください)

Ⅷ 引当金の取り崩し額(マイナス額で記載してください)

Ⅷ 財産の譲渡損等の額(認定規則第15条第1、3、4項の額をマイナス額で、第2項の額をプラス額で記載してください)

IX 合計

別表C(1) 遊休財産額の保有制限の判定

事業 年度	自 年 至 年	月 月	日 日	法人コード	
				法人名	

この様式では、遊休財産額が、遊休財産額の保有上限額を超えていないことを確認します。

遊休財産額は、以下の計算により算定します。

遊休財産額=資産-(負債+一般社団・財団法人法第131条の基金)-(控除対象財産-対応負債の額[※])

※対応負債の額とは、控除対象財産に直接対応する負債の額とその他の負債のうち控除対象財産に按分された負債の合計額です。

なお、控除対象財産から対応負債の額を控除するのは、借入金等によって資産を取得している場合には、負債が二重で減算されることになってしまうためです。

1. 遊休財産額の計算に必要な数値の作成(下記3. 及び4. に必要な数値を作成します。)

資産の部		
流動資産計	1	円
固定資産	2	円
その他の固定資産 4欄-2欄	3	円
固定資産計 5欄-1欄	4	円
記載要領		
網掛けの欄に数値を入力してください。 その他の欄は、自動的に計算されます。		
資産計	5	円

負債の部		
流動資産に直接対応する負債の額	6	円
控除対象財産に直接対応する負債の額 32欄	7	円
その他の固定資産に直接対応する負債の額	8	円
引当金勘定の合計額 35欄	9	円
その他負債の額 11欄-6欄-7欄-8欄-9欄	10	円
負債計 26欄	11	円
正味財産の部		
一般社団・財団法人法第131条の基金 27欄	12	円
指定正味財産の額 33欄	13	円
一般正味財産の額 15欄-12欄-13欄	14	円
正味財産計	15	円
負債及び正味財産合計 5欄(11欄+15欄と同額)	16	円

2. 遊休財産額の保有上限額(=公益目的事業の実施に要した費用の額に準ずる額)の計算

損益計算書上の公益目的事業に係る事業費の額	17	円
商品等の原価を予め費用計上していない場合のみ 商品等譲渡に係る原価相当額	18	円
特定費用準備資金の公益実施費用額への算入額 (別表C(5)から転記(公益目的事業の場合のみ))	19	円
計 (17欄+18欄+19欄)	20	円

公益実施費用額から控除する引当金の取崩額	21	円
財産の譲渡損、評価損等の額	22	円
特定費用準備資金の公益実施費用額からの控除額 (別表C(5)から転記(公益目的事業の場合のみ))	23	円
控除額計 (21欄+22欄+23欄)	24	円

3. 遊休財産額の計算

資産 5欄	25	円
負債 11欄	26	円
一般社団・財団法人法第131条の基金 12欄	27	円

控除対象財産の額 2欄	28	円
対応負債の額 39欄	29	円
遊休財産額 25欄-26欄-27欄-28欄+29欄	30	円

4. 対応負債の額の計算(次の2つの方法のうちいずれかを選択し、○を記載してください。)

公益法人認定法施行規則第22条第7項の方法

公益法人認定法施行規則第22条第7項の方法		
控除対象財産の額 2欄	31	円
控除対象財産に直接対応する負債の額 7欄	32	円
指定正味財産の額 13欄	33	円
31欄-32欄-33欄	34	円
引当金勘定の合計額 9欄	35	円
各資産に直接対応する負債の額 6欄+7欄+8欄	36	円
その他負債の額 10欄(11欄-35欄-36欄と同額)	37	円
一般正味財産の額 14欄(5欄-11欄-12欄-13欄と同額)	38	円
対応負債の額 32欄+34欄×37欄/(37欄+38欄)	39	円

公益法人認定法施行規則第22条第8項の方法

公益法人認定法施行規則第22条第8項の方法		
控除対象財産の額 2欄又は28欄	31	円
指定正味財産の額 13欄	33	円
31欄-33欄	34	円
引当金勘定の合計額 9欄	35	円
その他負債の額 11欄-35欄	37	円
一般正味財産の額 14欄(5欄-11欄-12欄-13欄と同額)	38	円
対応負債の額 34欄×37欄/(37欄+38欄)	39	円

【判定結果】

遊休財産額の保有上限額 20欄-24欄	40	円
遊休財産額 30欄	41	円
遊休財産額の保有上限額の超過の有無	42	

記載要領：下表の水色欄(部分)を記載してください。

別表C(2) 控除対象財産

事業 年度	自	年	月	日	法人コード	
	至	年	月	日	法人名	

※1 法人の管理運営に用いる財産については、事業番号の欄に「管」と記載してください。
 ※2 期首:申請書に添付した収支予算書の期首、期末:申請書に添付した収支予算書の期末

1. 公益目的保有財産

番号	財産の名称	場所 面積、構造、物量等	事業番号 ※1	財産の使用状況 (概要、使用面積、使用状況等)	帳簿価額		不可欠 特定財産 取得 時期	共用 財産 其用 割合
					期首※2	期末※2		
1					円	円		
2					円	円		
3					円	円		
4					円	円		
5					円	円		
6					円	円		
7					円	円		
8					円	円		
9					円	円		
10					円	円		
計(A)					円	円		

2. 公益目的事業に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産

番号	財産の名称	場所 面積、構造、物量等	事業番号 ※1	財産の使用状況 (概要、使用面積、使用状況等)	帳簿価額		共用財産 共用割合
					期首※2	期末※2	
1					円	円	
2					円	円	
3					円	円	
4					円	円	
5					円	円	
計(B)					円	円	

3. 資産取得資金(別表C(4)より)

番号	資金の名称	事業番号 ※1	資金の目的	帳簿価額		公益目的 保有財産	共用 財産 共用 割合
				期首※2	期末※2		
1				円	円		
2				円	円		
計(C)				円	円		

4. 特定費用準備資金(別表C(5)より)

番号	資金の名称	事業番号 ※1	資金の目的	帳簿価額		
				期首※2	期末※2	
1				円	円	
2				円	円	
計(D)				円	円	

5. 交付者の定めた使途に従い使用・保有している財産(1~4に記載した財産は含まれません。)

番号	財産の名称	事業番号 ※1	交付者の定めた使途	帳簿価額		
				期首※2	期末※2	
1				円	円	
2				円	円	
計(E)				円	円	

6. 交付者の定めた使途に充てるために保有している資金(1~4に記載した資金は含まれません。)

番号	資金の名称	事業番号 ※1	交付者の定めた使途	帳簿価額		
				期首※2	期末※2	
1				円	円	
2				円	円	
計(F)				円	円	
控除対象財産の額(A~Fの合計)				期首※2	期末※2	この額を 別表C(1)の 2欄に転記
				円	円	

記載要領：下表の水色欄(■部分)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

別表C(3) 公益目的保有財産配賦計算表

事業 年度	自	年	月	日	法人コード	
	至	年	月	日	法人名	

別表C(2) 控除対象財産における1. 公益目的保有財産の各事業への配賦方法を確認するものです。
複数の事業に関連する財産については、配賦基準を明記の上、記載してください。

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

番号	財産の名称	帳簿価額	配賦基準	公益目的事業会計						収益事業等会計						法人会計	
				公1	公2	公3	公4	公5	共通	小計	収1	収2	他1	他2	共通	小計	
1									共通	小計					共通	小計	法人会計
2									共通	小計					共通	小計	法人会計
3									共通	小計					共通	小計	法人会計
4									共通	小計					共通	小計	法人会計
5									共通	小計					共通	小計	法人会計
6									共通	小計					共通	小計	法人会計
7									共通	小計					共通	小計	法人会計
8									共通	小計					共通	小計	法人会計

記載要領：下表の水色欄(■部分)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

事業 年度	自 年 月 日	法人コード	
至 年 月 日		法人名	

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

番号	財産の名称	帳簿価額	配賦基準	公益目的事業会計							収益事業等会計					法人会計	
				公1	公2	公3	公4	公5	共通	小計	収1	収2	他1	他2	共通	小計	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
16																	

NO.	
-----	--

記載要領：下表の水色欄(■部分)を記載してください。

別表C(4) 資産取得資金

事業 年度	自 年 月 日	法人コード
至 年 月 日		法人名

別表C(2) 控除対象財産における3. 資産取得資金の明細となるほか、別表A(2)収支相償の計算(収益事業等の利益額を50%を超えて繰入れる場合)における公益資産取得資金に関する調整及び公益目的保有財産に係る当期収支(費用)の算出に用います。

事業番号	資産取得資金の名称(貸借対照表科目名)	
対象となる資産の名称		
当該資金の目的		
計画期間(事業年度)	平成 年度	～ 平成 年度 (年間)
資産取得等予定時期		
資産の取得等に必要な額の算定方法		
資産全体に占める公益目的事業に使用する割合(%)※1 (共用財産の場合のみ)		資産全体に占める公益目的事業に使用する割合の説明 (共用財産の場合のみ)

※1 資産の区分が可能な場合には資産の配賦割合を、物理的な特定が困難で一の資産とした場合には使用割合を記載してください。

1. 控除対象財産における資産取得資金の計算

【当年度の前後3年間の計画】(経過年度は実績値を記載)

年度	利益の繰入割合※2		積立額	取崩額	資産取得資金の額 (累計)	積立限度額
	50%	50%超				
3年度前			円	円	円	円
前々年度			円	円	円	円
前年度			円	円	円	円
当年度			円	円	円	円
次年度			円	円	円	円
次々年度			円	円	円	円
3年度後			円	円	円	円

※2 当該年度の収益事業等の利益の繰入割合について、該当欄に「○」を記載してください。

2. 公益目的事業全体の収支相償における公益資産取得資金の当期積立額及び取崩額の計算

【当該資産取得資金が、公益資産取得資金であり、かつ、当年度に収益事業等の利益額を50%を超えて繰入れる場合のみ記載が必要です。】

【当年度の前3年間の計画】

(当年度までの数値を記載)

※3 収支相償上の積立額及び取崩額は、それぞれの限度額の範囲内で記載してください。

年度	収支相償上の 積立限度額	収支相償上の積立額※3	収支相償上の 取崩限度額	収支相償上の取崩額※3	収支相償上の資産取 得資金の額(累計)
3年度前	円	円	円	円	円
前々年度	円	円	円	円	円
前年度	円	円	円	円	円
当年度	円	円	円	円	円

収益事業等の利益額を50%を超えて繰入れる場合は、これらの数値を、それぞれ、別表A(2)(収益事業等の利益額を50%を超えて繰入れる場合)の公益資産取得資金に関する調整(12欄)に算入してください。

1. の当年度の取崩額

円

収益事業等の利益額を50%を超えて繰入れる場合は、この数値を、別表A(2)(収益事業等の利益額を50%を超えて繰入れる場合)の公益目的保有財産に係る当期収支(13欄)(費用)に算入してください。

NO.

記載要領：下表の水色欄(■部分)を記載してください。

別表C(5) 特定費用準備資金

事業 年度	自 至	年 年	月 月	日 日	法人コード	
					法人名	

別表C(2) 控除対象財産 における4. 特定費用準備資金の明細となるほか、別表A(1)及びA(2) 収支相償の計算 における公益目的事業に係る特定費用準備資金に関する調整、別表B(5) 公益目的事業比率算定に係る計算表 における特定費用準備資金当期積立額及び取崩額、別表C(1) 遊休財産額の保有制限の判定 における特定費用準備資金の公益実施費用額への算入額及び特定費用準備資金の公益実施費用額からの控除額の算出に用います。

事業番号	特定費用準備資金の名称(貸借対照表科目名)
将来の特定の活動の名称	
当該活動の内容	
計画期間(事業年度)	平成 年度 ~ 平成 年度 (年間)
当該活動の実施予定期	
積立限度額の算定方法	

1. 控除対象財産における特定費用準備資金並びに公益目的事業比率における当期積立額及び取崩額の計算

【計画全体】(経過年度は実績値を記載)

※1 当該年度の収益事業等の利益の繰入割合について、該当欄に「〇」を記載してください。(将来の年度は、記載不要です。)

【当年度】(計画全体のうち、当年度分の数字を転記)

年度	積立額	取崩額	特定費用準備資金の額 (累計)	積立限度額
	円	円	円	円

算出した数値を、各事業別に、それぞれ、別表B(5)V(特定費用準備資金当期積立額)及び別表B(5)VI(特定費用準備資金当期取崩額)に記入してください。

取引額に転記してください。

2. 公益目的事業全体の収支相償における特定費用準備資金の当期積立額及び取崩額の計算

当該特定費用が、公益目的事業に係る資金である場合のみ記載してください。

【計画全体】(当年度までの数値を記載(将来の数値は記載不要))

【当年度】(計画全体のうち 当年度分の数字を転記)※2 収支相償上の積立額及び取崩額は、それぞれの限度額の範囲内で記載してください。

【三】年度別計画主体のつら、当年度分の数字を記入 <small>※2 収支相償工の積立額及び取崩額は、それぞれの限度額の範囲内に記載してください。</small>					
年度	収支相償上の 積立限度額	収支相償上の積立額	収支相償上の 取崩限度額	収支相償上の取崩額	収支相償上の特定費 用準備資金の額(累

収益事業等の利益の50%を公益目的事業財産に繰入れる場合には、算出した数値を、それぞれ、別表A(1)(収益事業等の利益額の50%を繰入れる場合)の公益目的事業に係る特定期間準備資金に開設する調整(10欄)に算入して下さい。

別表 E

事業 年度	自 至	年	月	日	法人コード	
		年	月	日	法人名	

財政基盤の明確化

財政基盤の明確化	寄附金収入等（注1）がある場合の収入見積りの適切性																			
	寄附金収入がある場合																			
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">寄附金収入の額</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td colspan="3">寄附金収入のうち、大口拠出者上位5者までの氏名又は名称及び寄附金の額について、記載してください。</td> </tr> <tr> <td>順位</td> <td>大口拠出者の氏名又は名称</td> <td>寄附金の額</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>.</td> <td></td> <td>円</td> </tr> </table>		寄附金収入の額		円	寄附金収入のうち、大口拠出者上位5者までの氏名又は名称及び寄附金の額について、記載してください。			順位	大口拠出者の氏名又は名称	寄附金の額	1		円	2		円	.		円
	寄附金収入の額		円																	
	寄附金収入のうち、大口拠出者上位5者までの氏名又は名称及び寄附金の額について、記載してください。																			
順位	大口拠出者の氏名又は名称	寄附金の額																		
1		円																		
2		円																		
.		円																		
公益目的事業以外のために使途を特定した寄附金がある場合には、その寄附ごとに特定の内容がわかる書類（寄附規定、募金要綱等）を添付してください。																				
会費収入（注2）がある場合																				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">会費収入の額</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td colspan="3">積算の根拠について、近年の会費収入の納入実績及び納入者の延べ数を記載してください。</td> </tr> </table>		会費収入の額		円	積算の根拠について、近年の会費収入の納入実績及び納入者の延べ数を記載してください。															
会費収入の額		円																		
積算の根拠について、近年の会費収入の納入実績及び納入者の延べ数を記載してください。																				
借入金がある場合（注3）																				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">借入金の額</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td colspan="3">借入れの計画について、記載してください。</td> </tr> <tr> <td>借入れ元</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>借入れの額</td> <td>円</td> <td>借入れ予定の時期</td> </tr> <tr> <td>借入れの目的 及び返済計画</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>		借入金の額		円	借入れの計画について、記載してください。			借入れ元			借入れの額	円	借入れ予定の時期	借入れの目的 及び返済計画						
借入金の額		円																		
借入れの計画について、記載してください。																				
借入れ元																				
借入れの額	円	借入れ予定の時期																		
借入れの目的 及び返済計画																				

注1 申請書に添付した収支予算書の期首から期末までの間に寄附金収入がある場合には寄附金の大口拠出上位5者までの見込み、会費収入がある場合には積算の根拠、借入れの予定があればその計画について記載してください。

注2 会費については、名称を問わず、法人が定款で定めた会員等に対して会費として徴収しているものを記載してください。

注3 複数の借入れがある場合には、借入れ元ごとに記載してください。

記載要領：下表の水色欄（部分）を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

【別表F(1)各事業に関連する費用額の配賦計算表(役員報酬・給料手当)】

(役員報酬及び給料手当について、配賦基準を明記の上、記載してください。)

事業 年度	自	年	月	日	法人コード	
	至	年	月	日	法人名	

○役員報酬

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

記載要領 下表の水色欄(**■** 部分)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

事業 年度	自	年	月	日	法人コード	
	至	年	月	日	法人名	

○役員報酬

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

記載要領：下表の水色欄()部分を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

事業 年度	自	年	月	日	法人コード	
	至	年	月	日	法人名	

○使用人を兼務する理事の給料手当

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

○使用者を兼務する理事以外の給料手当

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

○給料手当計

給料手当計

記載要領 下表の水色欄(**部分**)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

〔別表F(2)各事業に関連する費用額の配賦計算表(役員報酬・給料手当以外の経費)〕

(各費用額に共通して発生する関連費用等について、配賦基準を明記の上、記載してください。)

事業 年度	自	年	月	日	法人コード	
	至	年	月	日	法人名	

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

記載要領：下表の水色欄(　部分)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

事業 年度	自	年	月	日	法人コード	
	至	年	月	日	法人名	

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

記載要領：下表の水色欄(**部分**)を記載してください。また、必要に応じて、行を追加・削除してください。

事業 年度	自	年	月	日	法人コード	
	至	年	月	日	法人名	

(上段:配賦の根拠数値、中段:配賦割合、下段:配賦額)(単位:円)

4. その他の添付書類の一覧

以下の書類のうち、変更の認定に係る書類（注1）

1. 定款変更の案
2. 確認書
3. 許認可等を証する書類 ※許認可等を必要とする場合のみ
4. 事業計画書
5. 収支予算書
6. 事業・組織体系図 ※作成不要の場合あり
7. 寄附の使途の特定の内容がわかる書類 ※公益目的事業以外に使途を特定した寄附がある場合のみ
8. 当該変更を決議した理事会の議事録の写し
(9～16は、合併に伴う変更認定申請の場合のみ提出すべき添付書類)
9. 合併に伴い就任（又は退任）する理事等の名簿 ※合併に伴い就任（又は退任）する理事等がいる場合のみ
10. 理事等の名簿
11. 役員等名簿（閲覧用）
12. 理事、監事及び評議員に対する報酬等の支給の基準を記載した書類
13. 合併契約書の写し
14. 吸収合併に伴い消滅する公益法人の滞納処分に係る国税及び地方税の納税証明書
15. 消滅する法人に係る前事業年度の損益計算書等（消滅する法人が公益法人である場合には、当該公益法人の前事業年度の財産目録等及び認定府令§38Ⅰ②に規定する書類）
16. 社員の資格の得喪に関する細則
(17は、事業の譲渡に伴う変更認定申請の場合のみ提出すべき添付書類)
17. 事業譲渡契約書の写し

注1 必要書類のみ提出してください。なお、3、6、10、11、15は、既に行政庁に提出している場合であって、その内容に変更がないときは、提出不要です。

注2 10の「理事等の名簿」及び11の「役員等名簿（閲覧用）」は、変更後の全ての役員等の氏名を記載してください。なお、「役員等名簿（閲覧用）」は、「住所」欄の記載は不要です。

事業 年度	自 至	年	月	日	法人コード	
		年	月	日	法人名	

確認書

平成 年 月 日

殿

法人の名称

代表者の氏名

印

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49号。以下「認定法」という。）第11条に規定する変更の認定の申請に際し、当法人は、下記1及び下記2の事項のうち、変更に係るものについて確認しました。

記

- 1 認定法第5条第10号及び第11号に規定する公益認定の基準に適合していること。
- 2 認定法第6条第1号口からニまで、同条第3号及び第6号に規定する欠格事由に該当しないこと。

確認書の提出に当たっての注意事項

確認書に係る公益認定の基準及び欠格事由の関連条文及びその内容は下記のとおりです。

確認書の提出に当たっては、下記の公益認定の基準に適合していること及び欠格事由に該当しないことを必ず確認してください。

記

1－1 (親族等である理事又は監事の合計数の制限)

認定法第5条第10号

各理事について、当該理事及びその配偶者又は三親等内の親族（これらの者に準ずるものとして当該理事と認定法施行令第4条で定める特別の関係がある者を含む。）である理事の合計数が理事の総数の3分の1を超えないものであること。監事についても、同様とする。

1－2 (相互に密接な関係にある者である理事又は監事の合計数の制限)

認定法第5条第11号

他の同一の団体（公益法人を除く。）の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にあるものとして認定法施行令第5条で定める者である理事の合計数が理事の総数の3分の1を超えないものであること。監事についても、同様とする。

2－1 (理事、監事及び評議員の欠格事由)

認定法第6条第1号口、ハ、ニ

理事、監事及び評議員のうちに、次のいずれかに該当する者がいる。

- (1) 次の事由により、罰金の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から5年を経過しない者
 - ・ 認定法の規定に違反したこと
 - ・ 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号）の規定に違反したこと
 - ・ 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）の規定（同法第32条の2第7項の規定を除く。）に違反したこと
 - ・ 刑法（明治40年法律第45号）第204条、第206条、第208条、第208条の3第1項、第222条又は第247条の罪を犯したこと
 - ・ 暴力行為等処罰に関する法律（大正15年法律第60号）第1条、第2条又は第3条の罪を犯したこと
 - ・ 国税又は地方税に関する法律中偽りその他不正の行為により国税又は地方税を免れ、納付せず、若しくはこれらの税の還付を受け、若しくはこれらの違反行為をしようとすることに関する罪を定めた規定に違反したこと
- (2) 禁錮以上の刑に処せられ、その刑の執行を終わり、又は刑の執行を受けるこ

とがなくなった日から5年を経過しない者

- (3) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第6号に規定する暴力団員（以下単に「暴力団員」という。）又は暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者

2-2 (定款又は事業計画書の内容の法令等違反)

認定法第6条第3号

定款又は事業計画書の内容が法令又は法令に基づく行政機関の処分に違反している。

2-3 (暴力団員等による事業活動の支配)

認定法第6条第6号

暴力団員又は暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者がその事業活動を支配している。

事業 年度	自 至	年	月	日	法人コード	
		年	月	日	法人名	

合併に伴い就任（又は退任）する理事等の名簿

1. 評議員

（1）合併に伴い就任する者

フリガナ 氏名	常勤・非常勤	生年月日			性別	住所
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成			男	〒 -
	常勤・非常勤	年 月 日			女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成			男	〒 -
	常勤・非常勤	年 月 日			女	

（2）合併に伴い退任する者

フリガナ 氏名	常勤・非常勤	生年月日			性別	住所
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成			男	〒 -
	常勤・非常勤	年 月 日			女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成			男	〒 -
	常勤・非常勤	年 月 日			女	

2. 理事

（1）合併に伴い就任する者

フリガナ 氏名	常勤・非常勤	生年月日			性別	住所	代表理事 就任予定者
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成			男	〒 -	
	常勤・非常勤	年 月 日			女		
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成			男	〒 -	
	常勤・非常勤	年 月 日			女		

注 代表理事就任予定者は、その者の「代表理事就任予定者」の欄にレ点を記載してください。

（2）合併に伴い退任する者

フリガナ 氏名	常勤・非常勤	生年月日			性別	住所	代表理事
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成			男	〒 -	
	常勤・非常勤	年 月 日			女		
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成			男	〒 -	
	常勤・非常勤	年 月 日			女		

注 代表理事は、その者の「代表理事」の欄にレ点を記載してください。

3. 監事

(1) 合併に伴い就任する者

フリガナ 氏名	常勤・非常勤	生年月日		性別	住所
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男	〒 -
				女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男	〒 -
				女	

(2) 合併に伴い退任する者

フリガナ 氏名	常勤・非常勤	生年月日		性別	住所
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男	〒 -
				女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男	〒 -
				女	

＜個人情報の取扱いについて＞

認定を受けた後、公益認定が取り消された場合には、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49号）第6条に規定する欠格事由の審査に必要な範囲内で、欠格事由に該当する評議員、理事及び監事の氏名及び生年月日の情報を他の行政庁に提供する場合があります。このことにつき、就任予定者の同意を得た上で、記載してください。

事業 年度	自	年	月	日	法人コード	
	至	年	月	日	法人名	

理事等の名簿

1. 評議員（公益財団法人の場合のみ）

フリガナ 氏名	常勤・非常勤	生年月日			性別	住所
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日		男	〒 -
					女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日		男	〒 -
					女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日		男	〒 -
					女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日		男	〒 -
					女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日		男	〒 -
					女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日		男	〒 -
					女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日		男	〒 -
					女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日		男	〒 -
					女	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日		男	〒 -
					女	

2. 理事 (注)

フリガナ 氏名	常勤・非常勤	生年月日		性別	住所	代表 理事
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -	
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -	

注 代表理事は、その者の「代表理事」の欄にレ点を記載してください。

3. 監事

フリガナ 氏名	常勤・非常勤	生年月日		性別	住所
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -
	常勤・非常勤	明治 大正 昭和 平成	年 月 日	男 女	〒 -

4. 備考

事業 年度	自 至	年	年	月	月	日	日	法人コード	法人名
----------	--------	---	---	---	---	---	---	-------	-----

役員等名簿

1. 評議員 (公益財団法人の場合のみ)

番号	フリガナ 氏名	常勤・非常勤	住所
1		常勤・非常勤	〒 -
2		常勤・非常勤	〒 -
3		常勤・非常勤	〒 -
4		常勤・非常勤	〒 -
5		常勤・非常勤	〒 -
6		常勤・非常勤	〒 -
7		常勤・非常勤	〒 -
8		常勤・非常勤	〒 -
9		常勤・非常勤	〒 -
10		常勤・非常勤	〒 -

2. 理事 (注)

番号	フリガナ 氏名	常勤・非常勤	住所	代表理事
1		常勤・非常勤	〒 -	
2		常勤・非常勤	〒 -	
3		常勤・非常勤	〒 -	
4		常勤・非常勤	〒 -	
5		常勤・非常勤	〒 -	
6		常勤・非常勤	〒 -	
7		常勤・非常勤	〒 -	
8		常勤・非常勤	〒 -	
9		常勤・非常勤	〒 -	
10		常勤・非常勤	〒 -	

注 代表理事は、その者の「代表理事」の欄にレ点を記載してください。

3. 監事

番号	フリガナ 氏名	常勤・非常勤	住所
1		常勤・非常勤	〒 -
2		常勤・非常勤	〒 -
3		常勤・非常勤	〒 -

年　　月　　日

殿

法人の名称
代表者の氏名

印

変更認定申請に係る提出書

行政府の変更を伴う変更の認定を受けたいので、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第12条第1項の規定により、別添のとおり変更認定申請書を提出します。

法人コード	
法人名	

平成 年 月 日

殿

法人の名称
代表者の氏名 印

変更の認定に係る書類の提出について

下記に掲げる変更の認定に係る書類について、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第8条第3項の規定により、提出します。

記

1 当該変更の認定 平成 年 月 日付 号

2 提出書類（別添）

- ・定款（当該変更の認定に伴い変更がある場合に限る。）
- ・登記事項証明書（当該変更の認定に伴い変更がある場合に限る。）

担当者	
氏名	
電話番号	
電子メールアドレス	